

【 会 議 録 】

作成日	令和 5 年 2 月 15 日	作成者	環境推進課
会議名	令和 4 年度 第 3 回刈谷市環境都市アクションプラン推進会議		
日 時	令和 5 年 2 月 7 日 (火) 14 時～15 時 30 分	出席者	別添のとおり ・委 員 8 名 ・事務局 5 名
場 所	市役所 3 階 301 会議室		
資 料	別添のとおり		
議事内容	下記のとおり		

【開会】

◆環境推進課長により進行（委員紹介後は、会長が議事進行）

◆あいさつ（会長）

今回は現行アクションプランの内容の整理と、温室効果ガス排出量の算定方法の見直しや削減目標の検討についての内容であった。今回は温室効果ガス排出量の算定方法の見直しの内容と現状趨勢（BaU）および削減目標の検討、施策の見直しなど、骨子案の作成に向けて議論を深めていく内容となっている。

委員の皆さんにはぜひ積極的にご発言いただき、刈谷市を中心とした皆様の活動にも活用できるよう、また刈谷市が環境都市になっていくようなアクションプランにつなげていけるようにご協力をお願いしたい。

◆委員紹介（環境推進課長）

出席委員を順に紹介

※出席委員が過半数以上であるため、会議成立。

【議題】

議題（1）温室効果ガス排出量算定方法の見直しについて

- ・資料 1 に基づき事務局より説明

◆意見・質疑

特になし。

議題（2）温室効果ガス排出量の現状趨勢（BaU）と削減目標について

- ・資料 2 に基づき事務局より説明

◆意見・質疑

会長

：今回、算定方法の修正等によって、より高い削減目標となったことは良いことであると思うが、これまでと何が変わってこのような数値になったのかという説明をもう少ししていただきたい

【 会 議 録 】

- い。
- 事務局 : このまま何も対策をしない状態で想定される 2030 年の CO₂ 排出量が現状趨勢 (BaU) である。これには将来的な人口や製造品出荷額等の推移等の様々な要因を踏まえて推計しており、その結果として 2030 年の現状趨勢 (BaU) は 2013 年度比で 7.5% の減少となっている。
- 今回、2030 年の削減目標として 2013 年度比で 48% と示しているが、これは国の施策と刈谷市の施策による削減効果を合わせた数値となっている。国の施策で最も削減効果が大きいものは電力排出係数の低減によるものであり、これは電源構成が再エネ比率の増加等によって電力 1 kWh をつくるための CO₂ 排出量が減少することで達成されるものである。国の新たな地球温暖化対策計画 (令和 3 年 10 月) による 2030 年の電力排出係数の目標値が、前回の 0.37kg-CO₂/kWh から 0.25kg-CO₂/kWh に変わったことが今回の削減目標の値に大きく影響している。
- 刈谷市の現状趨勢 (BaU) と国の施策による削減効果だけでも 2013 年度比で 46% 削減は計算上可能となる見込みだが、市としても様々な温暖化対策の施策を充実させて、さらに 2~3% 程度の削減効果を積み上げることによって 2013 年度比 48% 削減を目指したいと考えている。
- 会長 : 資料 2 の 3 ページの表に出てくる数字が、他の資料との繋がりがわかりにくいように思われる。これらの推計した値がどこから出ていて、どこに繋がっていくのかということ資料の中で示してもらえるとわかりやすい。また、推計にあたって使用した元データがどこにあるのか、どのような推計方法であるのか等の説明を付けてもらえると、今後、見直す際にもわかりやすいと思われる。
- 委員 : 資料 2 の 3 ページのグラフについて、上の方が点線になっている部分は何を示しているのか。
- 事務局 : 点線で囲まれた上の部分が国の施策 (省エネ施策 + 電力排出係数の低減) による削減効果であり、その下の点線部分が市の施策による削減効果を示している。
- 委員 : 資料 2 の 3 ページの上の表で、国の施策の「電力排出係数」部分は先程説明いただいた再エネ導入等による電力排出係数の低減による効果で、「省エネ施策」部分はそれ以外の国の取り組み施策による削減効果ということか。
- 事務局 : そのとおり。国の「地球温暖化対策計画」の中で、高効率機器への転換等、様々な施策別に CO₂ 削減見込量が示されている。そ

【 会 議 録 】

の施策別のCO₂削減見込量を、産業部門であれば製造品出荷額等、家庭部門であれば世帯数等を刈谷市と全国の比率で案分することで、国の施策による刈谷市分のCO₂削減効果を推計している。国の施策の中にも刈谷市の取組分は含まれており、それに+ α できる部分、例えば刈谷市で実施している次世代自動車への補助事業や住宅用環境関連設備の設置費補助等の刈谷市の取組で、国の施策による削減効果に上積みされる部分や、昨年11月に設立された地域新電力による電力排出係数の低減等による独自の取組について、刈谷市の施策による削減効果としている。

- 委員 : 国の施策による削減効果をどのように推計したか等の解説がもう少しあるとわかりやすいと思われる。
- 事務局 : 会長からもご指摘をいただいております、国の「温暖化対策計画」を使用してどのように刈谷市の削減効果として推計したかについては、アクションプランの策定の際には掲載できるようにしていきたいと考えています。
- 委員 : 資料2の3ページの上の表で、国の省エネ施策による部門別の削減効果と市の施策による部門別の削減効果が異なっている。特に刈谷市の施策では民生家庭部門の削減効果が大きくなっているが、理由は何か。
- 事務局 : 国の省エネ施策による削減効果では、その削減効果を達成するためにどれだけの設備を導入する等の数値が設定されている。刈谷市の施策による削減効果で、民生家庭部門が多くなっているのは、住宅用太陽光発電の導入効果が大きく影響している。愛知県の住宅用太陽光発電の導入量は全国で1位となっており、刈谷市の住宅用太陽光発電の導入量も国の施策による導入目標は現状でほぼクリアできるような状態になっている。そのため、これから刈谷市の市の施策（補助金）を活用して導入される住宅用太陽光発電の導入分は、全て刈谷市の施策による削減効果として計上できるという考え方になっているので、国の施策に比べて刈谷市の民生家庭部門の削減効果が大きくなっている。
- 会長 : これまでの刈谷市の取組の実績も踏まえて、国の施策を上回る分を刈谷市の施策の効果として推計し、国の施策と刈谷市の施策を合わせた削減効果による削減目標が資料2の3ページの下の方に示されている48%になるという説明だったと思われる。先程もお話したが、上の表の数値を推計したプロセスがわかると、今後のアクションプランの内容についてもイメージが膨ら

【 会 議 録 】

むのではないかとと思われる。

また、国の施策の「電力排出係数」という表現について、係数の低減による削減効果ということがわかるように「電力排出係数」という言葉で止めない方が良いのではないかと考えている。

- 事務局 : 表の外側に記載する等、わかりやすい表現にするよう検討する。
- 委員 : 2030 年度の電力排出係数について、中部電力は 2013 年度比で 50%以上削減することを目標として公表しているが、今回の削減目標の算定にあたっては、中部電力の目標値を使用しているのか。または国の目標値を使用しているのか。
- 事務局 : 今回は、国の目標値である 0.25kg-CO₂/kWh を使用して算定している。
- 会長 : 中部電力の電力排出係数が国の目標値を上回る場合は、削減効果に反映されるのか。
- 事務局 : 削減効果としては反映できる。
- 委員 : 現状では、中部電力の目標値も国の目標値と同等程度である。
- 事務局 : 中部電力に限らず、エネルギー供給を行う事業者が排出係数を低減できるようになれば、より CO₂削減には繋がっていくことになり、削減効果として反映されることになる。

議題 (3) 施策の構成の見直しについて

- ・資料3に基づき事務局より説明

◆意見・質疑

- 会長 : 現行アクションプランの策定時は、ゼロエミッション（排出量をゼロにする）が重要とされていたと思うが、最近ではカーボンニュートラルがキーワードになってきている。刈谷市は世界でも有数の自動車産業を支えている地域であり、自動車産業は CO₂排出が必ず伴うものである。カーボンニュートラルという点を考えれば、CO₂の吸収にも力を入れて取り組んでいることを示していけると良いのではないかと。刈谷市は南北に長く、公園や池も多くある。愛知県環境審議会の水質の専門部会において、三河湾の水質がキレイになりすぎてアサリや海苔の漁獲量が減少しているという話があり、水質が良くなるほど植物性プランクトンが減少し、生態系を維持することが難しくなるという問題も見られるようである。これは海の話であるが、池についても同様に、市民に水辺を大事にしてもらえるように、池の周辺を散策しながら緑を維持できるような取組等、エネルギー

【 会 議 録 】

- を使わず楽しめることに繋げていけるようなことも検討できると良いのではないかと。
- 委員 : デンソーが環境調査としてミツバチを2万匹飼育しており、刈谷駅前商店街では、デンソーの総務部と繋がりをもたせていただき、ミツバチから採れた蜂蜜（サステナハニー）を提供いただいて、昨年12月にサステナハニーを使用した料理コンテストを実施した。今年度はミツバチの目から見た刈谷の植物の調査を子供と一緒に実施したいと考えている。ミツバチのために刈谷駅前商店街では駅周辺に花を植えている。愛知教育大学とも4者協定を結んで講座を開いていただいており、刈谷の植物がどのように変化しているのかも含めて、刈谷の植物から見た環境変化について調査していきたいと考えている。
- 会長 : 企業と商店街が協力して子供たちと一緒に実施するのはとても良い取組だと思われる。そういった取組をひとつの起点として、進めていけると良いのではないかと。
- 委員 : CO₂排出量の現状趨勢（BaU）について、人口の推移による自然削減という話があったが、このような自然削減はどのくらい予想されているのか。
- 事務局 : 機器の高効率化による省エネや人口の推移、IoTが進むこと等、様々な要因を含んで現状趨勢（BaU）が2013年度比で7.5%減少と推計しており、自然削減の影響のみでどれくらいという数値を出すことは難しい。
- 委員 : 社会が縮んでいくということも想定にあると思うが、人口が減少すれば自動車の利用も減少すること等も考えられるということか。
- 事務局 : 幸いにも現在の刈谷市の人口はほぼ横ばいで推移しているが、他の自治体では人口の減少は大きな問題となっている。
- 会長 : 現状趨勢（BaU）はどうしても推計になってしまうので、実際の結果とは異なってくる場合もあり、難しい部分だと思われる。刈谷市は産業がしっかりとしていることもあり、人口の減少による影響はそれほど大きくないのではないかとすることは、これまでもこの推進会議の中の話には出てきていた。全国的な傾向と刈谷市の現状を踏まえて現状趨勢（BaU）を推計していただいたと考えている。
- 会長 : トヨタ車体が、ビオトープがある公園をつくり、平成28年頃に環境省の賞を受賞しているが、そのビオトープをつくるにあたり、愛知教育大学の生態系の研究をしている先生方が協力している。こういった取組について掲示をすることはできるが、掲示をするだけでは人が集まらないのが現状であるので、イベントを実施するなど、人が集まる空間になっていけると良いのではないかと。刈谷市は大き

【 会 議 録 】

- な公園も複数あるので、既にあるものを大事にしながら環境教育や環境に配慮した生活に繋げていけると良いのではないかと。カーボンニュートラルという言葉から広げていける部分は多くあると思われる。
- 委員 : 先程、ミツバチの話があったが、続けていくことは非常に大変で、今後どうしていくかという議論も起こっているが、社員が日常行っている仕事が社会に繋がっており、環境面で貢献しているということが見えるようになってきているとは感じている。
- 事務局 : 適応策も新たに加えるとのことだが、適応策を新たに追加するにあたって、刈谷市のありたい姿や目指す姿、思い等があれば伺いたい。
- 事務局 : 適応策の策定は努力義務となっており、CO₂排出量が増加して気候変動が起こることを想定して対応するための施策である。例えば水害対策や熱中症対策等があるが、そういった取組についてまとめることを予定して、資料には記載している。
- 会長 : また、先程、会長から公園の話があったが、先般、刈谷市の5大公園（洲原公園、岩ヶ池公園、刈谷市総合運動公園、亀城公園、フローラルガーデンよさみ）の構想ができており、これら5つの公園はそれぞれコンセプトのある公園（亀城公園は歴史、刈谷市総合運動公園はスポーツ等）なので、コンセプトを活かしながら、今後さらに充実・拡大していくような計画となっている。そういった構想も含め、緑豊かな刈谷市にしていくというのが、市としての方向性にはなっている。
- 委員 : 以前、刈谷市の公園を自転車で回るコースを紹介した自転車マップが作成されたと思うが、あれは個人に向けたものであったと思われる。例えば、5ヶ所の公園を巡るエコツアーやエコツアーと企業の環境イベントとコラボするなど、市のイベントとコラボした取組があると、市民や企業の普段の取組と社会的な繋がりや貢献を広げていけるのではないかと。現在、刈谷市にあるものや実施している取組を利用した企画などを、本アクションプランの中で積極的につなげていけると、より発展していく可能性もあるのではないかと。
- 委員 : 先程、池の話があったが、水を渡る風により温度が2～3℃程度下がるような効果もあると聞いている。水辺に関しても、水害に繋がるものとして敵対するのではなく、景観や温度を下げる効果等につながるものとして市民の生活に取り入れることが重要ではないかと考えている。
- 委員 : また、現在、デンソーの総務の一部の方と刈谷の川の研究ができないかという話をしている。

【 会 議 録 】

会長 : 企業の協力が得られると様々なことができるというのは確かだと思われる。様々なアイデアも自分で持っているだけでは実現しないので、声を上げることで、より短期間に工夫して取り組める可能性もある。先程、池の話を出したが、刈谷市の池は湧水のものが多いという特徴がある。このような地理的なことも含め、市のことを知ってもらうことが、地域について考えるきっかけになると思われる。また、そのような話を自由に出し合える場所があると良い。例えば豊田市では、エコットという環境学習の施設がある。すぐには難しいことだと思うが、拠点となるような所があると取組等も進みやすくなるのではないかと考えている。

議題 (4) その他について

◆事務局説明

本日、議論いただいた内容については、さらに各課との調整や協議を進めながら、3月に庁内で中間報告を行い、引き続き改定に向けて検討を進めていく。

現在の委員の皆様の任期が令和5年3月31日までとなっている。改めて、委員の改正に係るお知らせをお送りするので、ご対応いただくようお願いしたい。

以上